

TOPICS

1 「運転行動と安全マネジメント」

●2011トヨタ・セーフティ・フォーラムin埼玉

9月28日、本田技研工業(株) 和光ビル(埼玉県和光市)で「2011トヨタ・セーフティ・フォーラムin埼玉」が開催された(主催:交通安全教育センター・レインボー・埼玉・和光)。このフォーラムは、交通安全活動に取り組む企業や団体を対象に事故防止の施策などの情報交換を目的に行われており、この日は113団体から290名が参加した。

開会にあたり、永田春記(株)レインボー・モーター・スクール代表取締役社長が挨拶。来賓を代表して、吉岡光男・埼玉県警察本部交通部交通部長が挨拶を行った。

今年のテーマは「運転行動と安全マネジメント」ということで、芳賀繁・立教大学現代心理学部教授が「ヒューマンエラーとリスクマネジメント」について講演。芳賀教授は心理学的観点から、ミス(失敗)の発生メカニズムを説明。ミスが発生するリスクはゼロにできないことを認め、事故を起こさないための対策を考へることが重要であると説いた。さらに、自分の仕事に対して誇りを持たせることが、



パネルディスカッションの様相

「ドライバーへの安全運転の動機づけとして、エコドライブの実践やドライブレコーダーの搭載は、有効な手段となる」、「危険を疑似的に体験しておくことが安全意識の向上につながる」、「事故は急いでいる時に起きやすいので、そうした状況を工夫するように管理者がドライバーをマネジメントすることも必要」という意見が出されるなど、会場の参加者を交えて活発な意見交換が行われた。

講演を行う芳賀繁・立教大学現代心理学部教授



事例発表を行う荻弘喜・総合警備保障(株)セキュリティサービス第二部機械警備業務指導課課長代理



社員の安全意識の向上につながっているという研究結果を報告した。

この後、荻弘喜・総合警備保障(株)セキュリティサービス第二部機械警備業務指導課課長代理が自社の交通安全の管理について事例発表を行った。休憩をはさみ、野村邦丸(株)文化放送編成局制作部専任部長がコーディネーターとなり、パネルディスカッションとなった。パネリストは芳賀教授と総合警備保障(株)の荻氏に加え、エコドライブコンサルタント事業を手がける、間地寛(株)アシア代表取締役、吉田智春・埼玉県警察本部交通部企画課交通安全対策推進室長。

NEWS REVIEW

●次世代パーソナルモビリティの実証実験

『外出したい』という意欲を高めることで、高齢者の方々のQOL[※]向上につなげる

Hondaでは昨年、熊本県と「次世代パーソナルモビリティの実証実験に関する包括協定」を締結し、将来の低炭素化社会の実現や県民のQOL向上に向け、熊本県と実際の都市交通環境下で様々な実証実験を行っている。その1つが、特別養護老人ホーム「天寿園」(熊本県熊本市)の入居者等がHondaの電動カート「モンパル」を活用することによる効果検証だ。その一環として10月18日、モンパルツーリングが実施された。

企画した天寿園・地域課副主任の清田隆広さんは、「当園に入居されている方の行動範囲を広げることが目的です。モンパルがあれば、歩行が困難な方も楽に移動することができます。ツーリングを通じて、『外出したい』という意欲と、『外出できる』という自信を持ってほしい」と話す。清田さんは7月、天寿園を利用する高齢者3名とツーリングチームを立ち上げ、モンパルの安全運転講習を園内で5回実施した。モンパルを体験しながら、安全な操作方法を身につけてもらうことができたという。



ツーリングチームは休憩をとりながら総距離約6kmを走行



見通しの悪い場所では必ず止まって、左右の安全を確認

ツーリングは朝10時に天寿園を出発。近隣のスーパーや、図書館、公園に立ち寄りながら、天寿園に戻るといった内容。ツーリングを終えた西秦壽さんは、「今日は安全を第一に考えて走りました。モンパルのおかげで、気軽に買い物などに行くことができます」と感想を語ってくれた。



ツーリングの途中には、スーパーで買い物なども楽しんだ

ツーリングチームの顧問として参加した熊本大学生命科学研究部の永田千鶴准教授は「高齢者が活力のある暮らしを継続していくためには、家に閉じこもらないよう、自由に移動できる手段を手に入れることが重要」とモンパルに期待する。この後、ツーリングチームでは、他の高齢者がモンパルで外出する時に役立ててもらえるように、天寿園周辺の危険箇所をまとめた安全マップを作成した。

また、モンパルツーリングに先立ち、10月17日にグランメッセ熊本(熊本県益城町)で開催された「電動カートを活用した『高齢者モビリティとQOL』フォーラム」では、永田准教授ら関係者から、効果検証の途中経過が報告された。



フォーラムでは「Hondaが考えるモビリティ社会」について、(株)本田技術研究所未来交通システム研究室の矢口忠博主任研究員が発表を行った

※ QOL (Quality of Life) = 人がどれだけ人間らしい生活を送り、物理的のみならず、精神的な豊かさや幸福を感じているかを尺度としてとらえる考え方。

●(財)交通事故総合分析センター 第14回研究発表会 交通事故に関する各種調査・分析研究を発表

10月3日、アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて(財)交通事故総合分析センター主催の「第14回交通事故調査・分析研究発表会」が開催された。

この研究発表会は、同センターが行った交通事故に関する各種調査・分析研究の成果を交通安全対策に活用してもらうことを目的に毎年行われている。

今年も、「団塊世代の歩行者事故の将来予測」「高齢歩行者 道路横断中事故の分析」など、歩行者の交通事故をテーマとした6つの発表があった。

※発表の詳細については以下のホームページを参照。 <http://www.itarda.or.jp/ws/>



●安全運転研修ご視察体験会

2 Hondaならではの教育プログラムを体験していただく

10月4・5日、鈴鹿サーキット交通教育センターが主催する「安全運転研修ご視察体験会」が愛知県名古屋、大阪府大阪市、香川県高松市の3会場で開催された。同体験会は企業の経営者や安全運転管理者等に、ホンダならではの教育プログラムを体験してもらうことを目的としている。3会場合わせて、77社から155名が参加した。



「動画KYT」を体験する参加者。「動画KYT」の詳細については以下ホームページを参照。 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/animation_kyt/

各会場では、実際の交通状況に近い動画を活用し、危険予測能力を高めるトレーニングができる「動画KYT」などを参加者が体験。坂出会場では、実車による安全運転指導の体験も行われた。

●ホンダカーズ静岡西 エンジョイ!!モビリティワールド

3 四輪販売会社からお客様とそのご家族へ交通安全を啓発するイベント

10月23日、交通安全教育センターレインボー浜名湖(静岡県浜松市)にて、ホンダカーズ静岡西「エンジョイ!!モビリティワールド」が開催された。このイベントは、静岡県中西部に15店舗を展開する四輪販売会社のホンダカーズ静岡西が、お客様とご家族を招待し、交通安全に役立てていただくために開催しているもので、今回が11回目。会場には、クルマの特性や交通安全について学べる18のコーナーが設けられ、親子連れなど1480名のお客様が賑わった。



「エアバッグ展開体験」では、シートベルト着用の重要性を訴えた(上)。親子でバイクを楽しむ「ちびっ子バイク体験」(下)

